

# ふらかわ

No.28

1989年(平成元年)12月



財団法人

鹿児島市動物公園協会



## 所 感

財団法人鹿児島市動物公園協会

常務理事 下野耕作

財団法人鹿児島市動物公園協会は昭和47年9月30日設立認可をうけ、同年10月14日平川動物公園の開園と同時に業務を開始しました。

協会の目的は、動物公園事業の発展振興と動物愛護思想の普及にあります。開設以来この目的達成のため各種事業の後援や動物愛護運動、動物に関する印刷物の作成配布を行ない、特に広報宣伝に力を注いでまいりました。そのほか動物公園の付帯事業として入園券の売改札、駐車場の管理、遊具の管理運転、使用料の収入事務のほか園内の清掃も受託しています。更に昭和61年4月から海づり公園、同62年からは錦江湾公園キャンプ場も鹿児島市より管理委託をうけ事業規模も拡大するに至りました。協会発足以来17年間にわたって、協会職員は一致協力して楽しい動物公園づくりに側面から協力してまいっているところであります。

平川動物公園は緑に満ちあふれ、紺べきの錦江湾を隔てて噴煙たなびく桜島を一望する絶好の場所に立地し、広い園内には多種類の野生動物がのびのびと生活している自然放養式の動物公園です。訪れた観客は自然のすばらしさや、そこに生きる動物の神秘さに感動させられると共に、私達が失ったものを思い出させる人間再発見の場でもあります。年々都市化の進む鹿児島市の市民にとって貴重な財産ではないかと思っています。

昭和59年11月コアラの来園があり、その後関係者のご尽力により順調に繁殖していることは喜びにたえません。現在ではコアラのたくさんいる動物公園として有名となり、全国から多数の観客を迎えるようになりました。

協会としましては皆様に楽しく動物公園で過ごしていただくように、園内売店や食堂を一層充実して入園者に喜んでいただける飲食物を提供し、来園記念となるキャラクター商品などの開発にいつも努力しているところであります。またこれより生じた利益の大半は公益事業や入園者のサービス向上のための施設の整備などに寄付しています。

最近地球環境の悪化が急速にすゝみ野生動物の減少が危惧されています。ここに一つの統計があります。種の絶滅の速度を表わす数字ですが、1900年を1とした場合、1970年には1000、2000年には実に40,000の種が消滅するであろうと予測しています。このような急激な種の減少に対応するため最近ズーストックということがいわれています。これは動物園等において野生動物を計画的に増殖させることばです。協会としても種の保存の試みに協力することは勿論、子供のころから自然の大切さや動物をかわいがりやさしい心を養う教育や、広範な自然環境保護についても今後より積極的に貢献していくべきではなかろうかと考えています。

動物公園協会業務について皆様のより一層のご理解とご支援を賜ります様お願いします。

### ◀表紙

#### タンチョウ Japanese Crane

ツル目 ツル科

日本(北海道)では留鳥。  
モンゴル東部・中国東北・ウスリーで繁殖。朝鮮半島・中国東南部で越冬、平地の広い湿原にすむ。湿地の低い丘などにアシなどの植物をあつめ雌雄共同で巣をつくる。1腹2卵。雌雄交代で抱卵し約32日でフ化。広大ななわばりをつくり繁殖するが、冬期は群れとなる。雑食性。

### ▼行事

1990年1月2日～1月3日 お正月お年玉大会  
3月中旬～4月末日 動物公園春まつり  
5月3日～5月5日 こどもの日まつり

### ▼飼育動物数(1989年10月現在)

ほ乳類	78種	364点
鳥類	80種	517点
は虫類	7種	11点
甲かく類	2種	4点
計	167種	896点

# コアラ3世のたん生!

日本で初めて



昭和63年7月8日、日本初のコアラ(オス)3世が生まれました。平成元年1月8日母親の育児のうから完全に姿を現し順調にそだっています。父親は平川動物公園で生れた2世コアラ「サツマ」母親は同じく2世の「アスカ」です。「ラッキー」と命名されました。



# 動物公園ニュース

## 動物の赤ちゃん



コクチョウの赤ちゃん (元・1・9生)



トカラヤギ(原種)の赤ちゃん  
(元・2・15生)



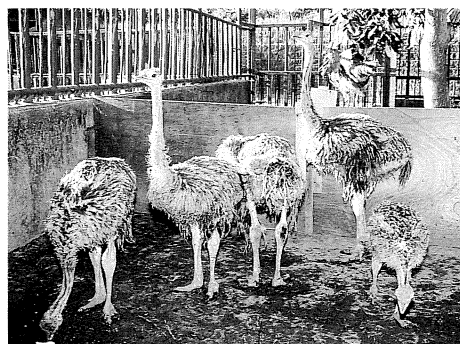
クロヒョウの赤ちゃん (元・3・17生)  
人工哺育をしました。



キリンの赤ちゃん (元・5・6生)



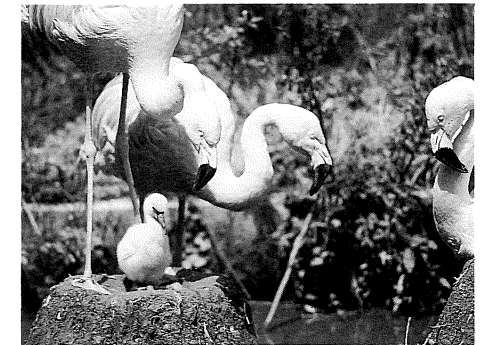
バーバリシープの赤ちゃん  
(元・5・12生)



ダチョウの赤ちゃん (元・5・29生)  
今年は5羽人工フ化しました。

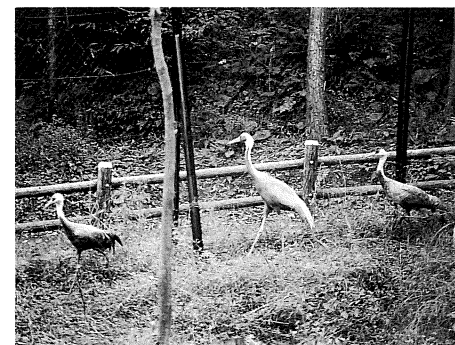


アマミノクロウサギの赤ちゃん (元・7・2生)



チリーフラミンゴの赤ちゃん (元・7・19生)

## 野生動物の保護



シベリアからとんできて出水市荒崎で冬を越しているうち、病気やケガで帰れなくなったナベヅル3羽と、マナヅル1羽を保護しました。 (元・5・2)

## 動物についての催し



第7回 野鳥観察会 (元・3・12)  
30種類の野鳥が観察されました。

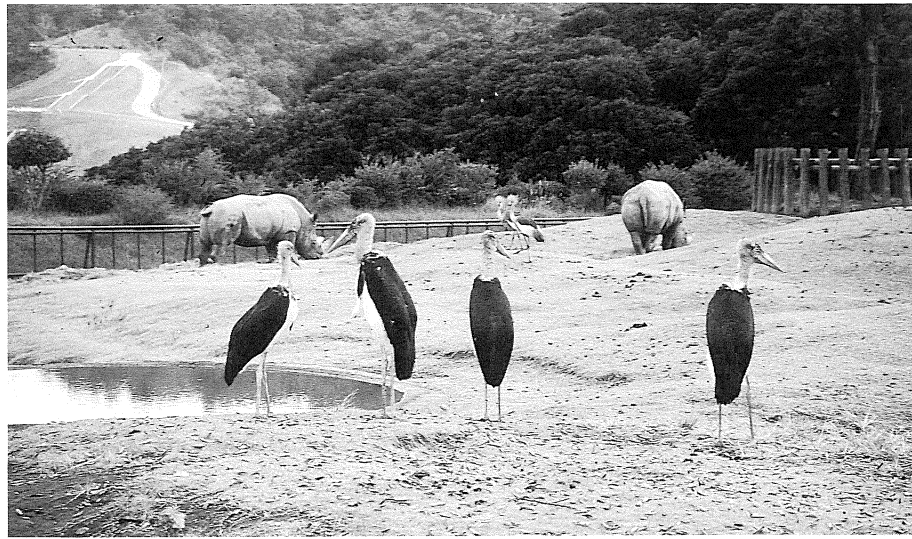
## 教育普及活動



今年も98名の参加のもと、第17回サマースクールが開催されました。  
(元・8・22～23)



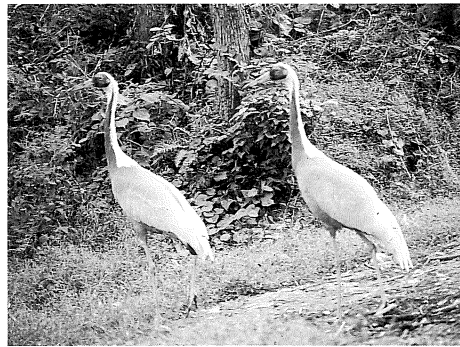
わくわく動物ガイド (元・3・19)  
ワオキツネザルの島にわたって、説明をききました。



アフリカハゲコウ 6羽アフリカ園へ (元・9・26)



アルパカ 2頭 (元・3・24)



マナヅル 2羽 (元・3・31)



アフリカヤマアラシ3頭 (元・3・30)



クロヅル 2羽 (元・10・18)

# ハイ！担当は私です



ツル類9種とクジャク、レッサーパンダの飼育を担当しています。  
レッサーパンダは友好都市の中国・長沙市から1988年7月25日来園しました。  
主食は竹の葉(モウソウチク・メダケ)ですが、柿・ブドウ・リンゴなども好んで食べます。  
とくにブドウは好物でいくらでも欲しいという感じであとをついてきます。今ではご覧の  
ように非常によく馴れました。このような姿を見ましたら、お気軽に声をかけて下さい。  
担当動物のことなら何でもお答えいたします。

赤ちゃんパンダの誕生を早く実現させたいと、毎日頑張っております。

田淵 賀彦 技師

## — 新らしくなった遊園地施設 —



スリル満点のチェン・タワー



桜島の眺めが素晴らしい展望喫茶とゲームコーナー



ハナショウブとミス鹿児島撮影会 (元・5・28)



ハナショウブ スケッチ大会 (元・6・1～6・7)



平成元年度 動物愛護作文入賞者

県知事賞	ぼくのぴえーる	中洲小	1年	みのともひこ
市長賞	わが家のアイドル	武小	6年	福永真弓
県獣医師会長賞	ぼくのうちのハチ	大明丘小	2年	そのだやすお
市獣医師会長賞	小さな命	中洲小	4年	肥後邦治
日動水協会賞	動ぶつ広場のチャボ	中洲小	3年	大江かよ
動物公園長賞	家族みんなで	中洲小	5年	兼子彩

飼育レポート

ヨーロッパフラミンゴの繁殖

飼育技師 満枝修作  
飼育技師 上別府秀人



1. はじめに

昭和47年からアフリカ園でヨーロッパフラミンゴを飼育してきましたが、キリン・シマウマ・ダチョウなどの動物と混合飼育をしていたため、巣造りは行なわれたが途中で中止することが何回となく見られました。

そこで昭和61年に繁殖場をアフリカ園内に設けましたが、繁殖場にネットがなかったため上空にカラスやトビなどの姿を見ると警戒の声を出すことが多くありました。

昭和63年4月に繁殖場にネットを張るとフラミンゴも落ち着いてきた様子でした。平成元年3月より巣造りが始まり、5月18日に繁殖がみられましたので報告します。

2. 巣造りから孵化まで

飼育しているフラミンゴは21羽、植え込まれている樹木はサザンカ・ツバキ・ツツジ・クロガネモチ・竹・ゴムなどで、中央に島のある池で深さ約50cmあります。

昭和63年6月に池の中央と石垣の下に黒土を入れ、人工の巣を10ヶ所造ってやりました。すると巣に刺戟されたのが巣に座っているペアも4組ほど見られ、別のところでは巣づくりをしようとするペアもありましたが、交尾・産卵までには至りませんでした。

平成元年3月下旬の天気の良い日などは、ほとんどのフラミンゴが羽をひろげて走りまわったり、オスが甲高い声をあげるなど、ディスプレイを始めて繁殖場内が騒がしくなりました。

- 3月25日 巣造り2ヶ所
- 27日 巣造り3ヶ所
- 31日 巣造り5ヶ所
- 4月8日 巣造り6ヶ所、座っているのを3羽確認。
- 9日 産卵確認1ヶ所、抱卵No1
- 13日 抱卵確認2ヶ所、抱卵No2
- 14日 2羽抱卵中、2個巢外で破卵
- 15日 3羽抱卵中
- 20日 5羽座っている。
- 21日 オス・メス交代で抱卵し、嘴の裏で土を巣に寄せている。
- 22日 8羽巣に座っている。
- 23日 7個の産卵のうち2個は巢の外にでているので戻してやる。
- 24日 9羽座っている。餌にAD3Eを混合。
- 5月3日 8ヶ所、産卵・抱卵を認める。
- 6日 輸卵管内破卵で1羽死亡。
- 18日 第1卵のフ化確認する。39日目のフ化であるが、文献によるとフ化日数は28～31日であり、巣の近くで破卵が認められたりしているため、その後再び産卵したのではないかとと思われる。親鳥の羽に赤い

フラミンゴミルクが着いている。  
羽の間からヒナが首を出す。

5月19日 2羽目のヒナのフ化を確認する。  
1回目フ化のヒナの嘴から頭の部分が、親の与えるミルクによってかなり汚れている。  
2羽のヒナとも鳴き声が聞こえる。  
現在、フ化した2羽のヒナは順調に育っており、親と同じ餌を食べているところを2~3回確認しています。

### 3. 考察

今回の繁殖の期間中に、14個の産卵を確認しました。完成した巣9ヶ所のうち抱卵をしていた巣は8ヶ所で、そのうちフ化したのは2羽だけでした。



コアラの体重測定

今回のフ化率(25%)は他園に比べて低いと思われる。原因として、初めての繁殖であったことも考えられますが、親鳥を切羽してあることもフ化率の低さにかなりの影響を与えていることも考えられます。

今回2羽フ化したということで、飼育環境の整備という点ではうまくいっていると思われませんが、今後フ化率を高めていくためには切羽していない個体を導入していく必要があると思います。

当面はフライング・ケージ内のベニイロフラミンゴも現在の繁殖場に移し、ヨーロッパフラミンゴと一緒に飼育し繁殖を目指していきたいと考えています。

最後にいろいろと御教示頂いたフェニックス自然動物園の皆さんに感謝いたします。

## コアラ来園5周年

飼育係長 酒 匂 猛

早いもので、コアラが来園して今年の10月25日で5周年を迎えました。日本では飼育が困難とされたコアラも順調に繁殖し、現在ではオーストラリアから贈られた数の2倍の12頭に増えました。

1988年には日本で最初の3世コアラも誕生しましたが、これもいろんな方々のアドバイスや援助があったからだと思います。

さて、一見のんびりして平和そうに見える

コアラたちにも、恋があり、争いがあり、また子育てに忙しい時期があり、やがて哀しいが厳しく子を突き放す子別れの時期を迎えるといったドラマがあります。

また、育ち盛りの子コアラはジャンプしたり、走ったり、相撲を取ったりと大変活発に遊んでいますが、それはたいてい夜なのでお客様に見ていただけないのが残念です。

今までに7頭の子供が生まれましたが、コアラの系統図・一覧表は下記のとおりです。

これまでの5年間は試行錯誤のなかで、コアラをいかに長生きさせ、繁殖させるかにはありましたが、これからの5カ年は50頭飼育の夢を現実のものにする礎を築く期間だと思

ます。そのための飼育技術の向上、ユーカリの植栽などの研究に努めて行きたいと思っています。

そして、いつの日か、コアラとお客様が一緒にハイ・ポーズという日が来るのを夢見ています。 (元・10・31)

### 1. 平川動物公園のコアラ一覧表

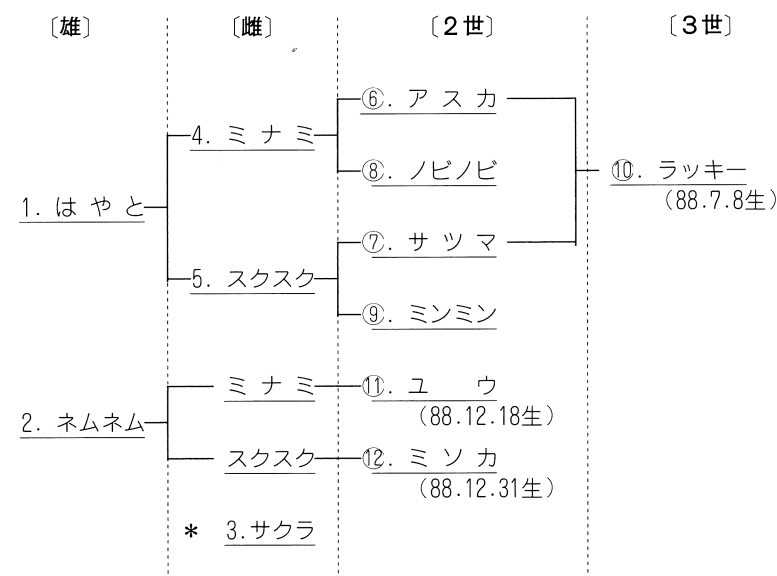
1989.10.31現在

名 前	性別	生年月日	年 齢	当園生まれのコアラ
1. は や と	♂	1983.3.12	6年7ヶ月	
2. ネムネム	♂	1981.2.22	8年8ヶ月	
3. サ ク ラ	♀	1982.10.24	7年	
4. ミ ナ ミ	♀	1983.11.10	5年11ヶ月	
5. スクスク	♀	1983.12.16	5年10ヶ月	
6. ア ス カ	♀	1986.5.16	3年5ヶ月	① 2世
7. サ ツ マ	♂	1986.7.27	3年2ヶ月	② /
8. ノビノビ	♂	1987.9.11	2年1ヶ月	③ /
9. ミンミン	♀	1987.12.9	1年10ヶ月	④ /
10. ラッキー	♂	1988.7.8	1年2ヶ月	⑤ 3世
11. ユ ウ	♂	1988.12.18	10ヶ月	⑥ 2世
12. ミ ソ カ	♀	1988.12.31	10ヶ月	⑦ /

※ ネムネムは平成元年11月20日白血病で死亡しました。

### 2. コアラの系統図

1989.10.31現在



## 平川動物公園を訪れる野鳥

川 畑 純 徳



### ◀ キセキレイの幼鳥

園内の五位野川の築堤  
(自然石)で繁殖し、巣立ち  
直後の写真 (昭62・5・10)

平川動物公園は後背地に薩摩半島の山なみをひかえ、中心部を五位野川の清流が横断して、豊かな緑につつまれています。野鳥のすみかとして格好の場所といえます。今年の3月中旬、園内の野鳥観察会では約30種類が観察されているほどです。

昭和61年1月から昭和62年3月にかけて1年余り、園内の野鳥の生息状況を調べました。観察したらその都度手帳に記入し、あとで観察した種類・数・声だけか・姿をみたか・観察した場所はどこかなどについて記録に残しておきました。観察の時間が午前9時から昼ごろまでと限られることが多かったので、見おとしがあるかもしれません。こんごの観察によって補ってもらうことを期待しています。また調査していた期間中、キセキレイの繁殖状況を観察できましたので、あわせて報告します。

### 1. いつでもみられる鳥

キジバト・ヒヨドリ・シジュウカラ・カワラヒワ・キセキレイ・ウグイス・スズメ・ハシブトガラスなど。

ウグイスは2月2日初なきをきく。(ツル舎付近の山林)

### 2. 秋から春にかけてみられる鳥

シロハラ・ハクセキレイ・アオジ・メジロ・シメ・エナガ・ルリビタキ・オシドリ・マガモ・大ナガガモ・ツグミ・アオバト・ミヤマホホジロ・トラツグミ・コジュケイ・ジョウビタキ・イソヒヨドリ・イカル・コゲラ・モズ・エゾヒタキ・ヤマガラ・ニホンキジ・アカハラ・アマツバメ・チュウサギなど。

トラツグミは赤ちゃんの森にかぎって観察。

アオバトは3月10日遊園地うへの雑木林で32羽のむれを観察。

モズは9月24日初なきをきく。

毎年ハクチョウ池に渡ってくるカモ類の先づつ隊、マガモの番が10月15日観察された。園内の野鳥観察に最適の時期は、1月下旬から3月上旬ごろまでです。この時期は入園客も最も少ない時期で、落葉樹の葉が落ちて観察が容易になり野鳥の種類も多い。

### 3. 春から夏にかけてみられる鳥

ツバメ・ヒガラ・ビズイ・アカショウビン・ホトトギスなど。

ホトトギスは6月上旬から7月下旬ごろまでなき声をきく。

春から夏にかけては最も野鳥が少ない。樹木が繁茂して鳥もみつけにくい季節。

### 4. めずらしい鳥

アリスイ 汚水処理場からゾウ舎付近にかけて観察(1月)

ホシムクドリ オーストラリア園うらの畑で観察(1月)

ウソ 五位野川沿いで桜のつぼみを採食しているのを観察(3月)

### 5. 平川動物公園で繁殖している鳥

キジバト・シジュウカラ・カワラヒワ・コジュケイ・コゲラ・ヤマガラ・キセキレイなど。

62.4.6、観覧通路に面したハクチョウ池の滝の近くのサルスベリの幹の地上約2mに直径35%の巣穴があり、コゲラが首を出して、外からきた1羽とともに巣を出て飛び去るのを観察。

### —— キセキレイの繁殖観察 ——

62年4月8日 しょうぶ園の川岸の岩組みの間に2羽で巣材を運ぶ。

4月16日 1羽が巣についている。

4月19日 巣の中からはっぽ、近くを2羽がとびまわって観察者を警戒。

4月20日 巣の中2コの卵、1羽が川面から岩組みをかけたぼって巣に入る。

4月21日 } 抱卵

4月29日 }

4月30日 ヒナがフ化している様子、2羽で交替して餌(コン虫)を運ぶ。

5月5日 巣の中のヒナ5羽を確認、しきりに親鳥2羽が餌を運び与えては飛び去る。

5月10日 ヒナは巣立ちしている。

(元 平川動物公園長)

## 平川動物公園のあゆみ

(鴨池動物園の移転から開園まで)

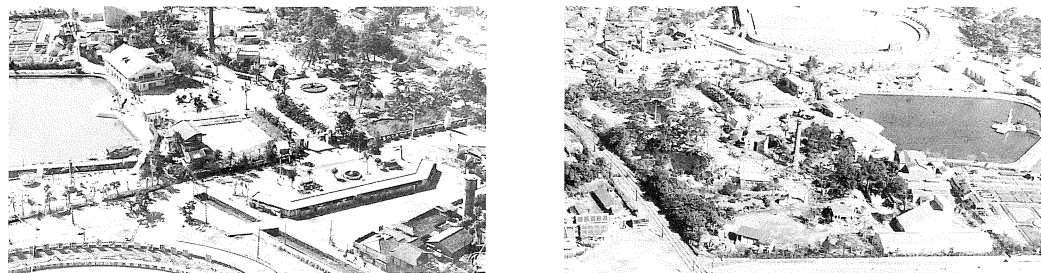
川 畑 純 徳

### ▲鴨池動物園の移転のうごき

大正5年に開園、全国で4番目の古い歴史をもつ鴨池動物園の移転が問題になりはじめたのは昭和41年ごろからであった。これよりさき昭和35年2月、都市計画事業によって園内を高架で横断していた市電の軌道が隣接地と同じ路面に下げられることになり、軌道敷より山手側にあったインドゾウ・トラ・ライオン・クマ類・アシカ池などの動物舎や樹木を移転。昭和35年6月には軌道敷より海岸側に全ての動物舎などの施設をまとめる工事が完成し、園は軌道敷をへだてて完全に二分された。昭和37年12月から昭和38年3月までの間に軌道敷から山手側の敷地2,665坪を売却(九州電力ほかへ)。総額119,928,180円。昭和39年2月には九州電力のビル建設の残土で、鴨池の名物であったポート池も埋め立てられ、モノレールなど大型遊具が設置される。しだいに昔日の鴨池の雰囲気はそこなわれてきた。敷き地の狭さとともに周辺の市街地化が急速にすすみ、車の排気ガス、騒音の動物たちへの公害が必配され動物園を移転しようという機運が生まれてきていた。

昭和36年4月、交通局から教育委員会に移管されていたが、昭和43年7月、都市計画部に移管される。動物園の位置、面積等について都市計画の一環として考慮していくことになった。都市計画部では市内の動物園候補地の調査を昭和43年度中に実施している。

昭和44年度、動物園移転調査費300万円が計上された。



昭和33年頃の鴨池動物園 (左・市営球場うえから 右・郡元上空から)

### ▲移転候補地の選定

昭和43年度中に都市計画部によって市内の10数ヶ所を動物園の候補地として調査。

移転先の条件として、(1)地価の安いこと、(2)水が豊富に得られること、(3)指宿・霧島の観光ラインにあること、(4)国道に近いこと、(5)地形の変化と景観、(6)地元の協力。以上の点があげられた。この候補地の調査は草深い山地にわけ入ったりして、詳細な調査記録が得られた。昭和44年2月13日、都市計画部内で市内の10数ヶ所の候補地のうち、比較的移転先の条件に合致した古屋敷・平川(烏帽子嶽神社入口付近)・慈眼寺・吉野・伊敷の5ヶ所にしぼり込んで検討が加えられた。このうち伊敷地区は指宿・霧島の観光ラインにかけ離れている。

吉野地区は水源に不安があり、いづれも候補地から遠のき、谷山の3ヶ所についてさらにくわしく調べることになり、日本の動物園界の権威であった古賀元東京上野動物園長(故人)を招へいして、上記の3ヶ所について実地に踏査してもらい意見をきいた。

このうち慈眼寺の場合、豊かな樹木、竹林、奇岩など野趣にとんだ自然があるが、水量に不安があり、広大な平坦地が少ない。とくに市街地に近く地価が高いことなどで、慈眼寺周辺への移転は見送られた。結局残る2ヶ所が最有力候補地となった。

平川町古屋敷地区は、五位野川・障子川にも近く水資源に恵まれていて観光ラインにのり国道に近い。山林・畑地を中心とした広大な変化に富んだ土地がある。何より地元が全面的な協力体制を示し、土地の買収折衝がスムーズに進むと見られていた。平川町烏帽子嶽神社入口付近も同じような条件下にあったが、前者がより市街地に近いという点で最終的に古屋敷地区にしぼったが、いざ交渉に入ってみてもなかなか価格で折合いがつかず、昭和45年8月、9ヶ月にわたる用地交渉をやめて同地区への移転を断念した。ちょうどこの頃五位野地区平床(現在の動物公園)の地主から誘いがかかっていた。この地区は指宿枕崎線をはさんで反対側のやゝ南寄りの丘陵地帯で、候補地の条件にも合致していたので、急速にクローズアップされることになった。この用地の買収は不動産業者の買占めによる値上りを防ぐため、極秘のうちに地主約70名を対象に買収の話し合いが進められ、昭和45年9月には買収を終っている。買収面積は31万4千平方メートル。買収総額は2億4千万円である。買収価格は3.3平方メートルあたり平均2,500円となる。

### ▲基本構想の作成

昭和46年1月16日「市立動物園建設プロジェクトチーム」が発足。新動物園の建設の推進、鴨池動物園の跡地売却などを目的とし、当時山口哲夫都市計画部長が総括者となり、その下に都市計画・区画整理・公園緑地・建築課・動物園の各課から、土木・建築・造園動物の専門技術者が参画した。



新動物園建設用地

昭和46年1月21日、チームで基本構想設計委託について協議。

戦後日本各地に動物園が新設されたが、その殆どが古賀元上野動物園長(故人)の設計になっていた。鹿児島の場合は、異なった発想にたつ人を選任することになる。戦後20回以上の海外渡航の経験を持ち、伊豆サボテン公園など設計した、東京農業大学育種学研究所長 近藤典生教授に依頼することになる。

昭和46年2月4日、市役所において、基本構想委託契約が締結、委託料7百万円。

ただちに作業が開始され、数回にわたって近藤教授が来鹿、建設プロジェクトチームと検討会が精力的にもたれた。

昭和46年3月31日、近藤教授が「鹿児島市動物公園の基本設計構想」を提出。この構想の巻頭に次のように述べてある。「……公立の地方動物園は、いわゆるよく知られた外国産の大動物を、一種でも多くそろえ、それらを配列することに精一ぱいで、予定地のもっている自然景観や動物舎の景観要素としての役割について、配慮が殆どはらわれていなかった。



……自然は、ある地形を基盤とし、それに植物と動物が組み合わさり、構成されているものであって、これらを別々に切りはなし考えるべきではなく、動物と植物を一体的に構成することこそ、真の生物界の姿であり、動物園もかくあるべきであろう。……」

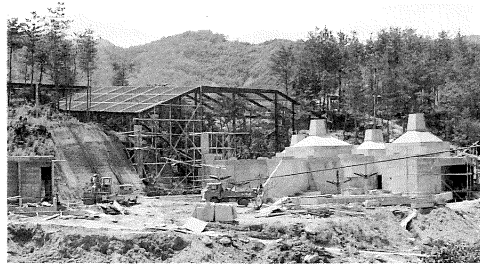
この考え方は、建設にあたっては勿論その後今日まで受け継がれている。平川動物公園のアフリカ園の景観はこの基本構想を活かし公園のシンボルとなっている。

#### ▲新動物園の建設

昭和46年4月5日、新動物園建設の起工式。

市長・関係者・地元協力者など出席し、近藤教授が基本構想の概要について説明。当初昭和47年4月1日の開園をめざして、予算約13億円で着工した。用地の造成と並行して動物舎その他の附属施設の実施設計は急ピッチで進められた。実施設計にあたっては、敷地31.4万平方メートル、中央部を五位野川が流れ、標高40メートルから60メートルの山林や谷のある起伏のある地形をできるだけ残し、動物・建築・造園が調和した公園的雰囲気になるよう配慮された。動物舎その他施設もいかに景観にとけ込ませるかということに苦心がはらわれた。動物舎は緑につつまれて適度な距離をおいてあり、観客が期待感をもって進むようにするため、しばしば設計の変更などもあった。

昭和47年5月ごろになると、正面ゲート、キリン舎、アフリカ動物舎、クマ類放飼場、アシカ池、爬虫類館、日本一といわれるフライングケージなど主要な動物舎がしだいに姿を整えてきた。

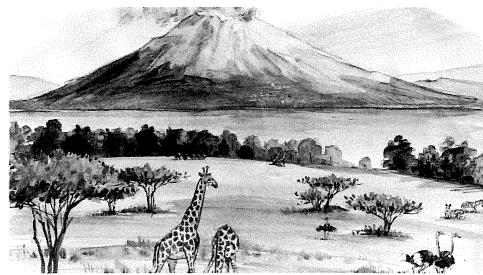


建設中のフライングケージと類人猿舎(昭47)

次々と姿を現わしてきた。当初の昭和47年4月開園から延期されて昭和47年8月、開園のメドで進められた各種施設の建設は、この頃になるとほとんど完成している。ところが国道225号線から新動物園への進入道路の用地買収や国鉄指宿枕崎線の跨線橋の工事おくれで、最終的には昭和47年10月14日の開園となる。開園の直前には、夜を徹してケヤキの大木3本がアフリカ園に植え込まれ景観をひきたてるなど、ぎりぎりまで建設は続けられた。

#### ▲鴨池動物園の閉園

長年市民に親しまれてきた鴨池動物園は昭和47年2月29日で閉園され59年の歴史を閉じ、引越し準備期間中の3月いっぱい無料で開放され市民が名残りを惜んだ。昭和31年鴨池動物園で開催された「誰にもわかる科学博覧会」は好成績を残し、その益金で昭和32年水族館が着工され昭和33年6月、開館の運びになっている。この水族館も同時に閉鎖され14年足らずの短い歴史を終っている。・新しい動物園では水族館建設の計画はなかったため、飼育して



アフリカ園構想 (昭46)



鴨池水族館(昭・47)

いた魚類は当時与次郎ヶ浜埋立地に建設された水中レストランに移された。昭和47年4月1日から遊具のモノレールの撤去移転、さらに6月の中旬に入ると樹木の移植作業がはじまった。

昭和47年5月16日、動物園跡地3万3千平方メートルが一般競争入札に付された。買い主は竹中工務店(本社・大阪)で、総額21億1千万円

3.3平方メートル、19万1,818円。この敷地はのちに「ダイエー」が建設されている。

旧動物園跡地は、北西の一角(2,810平方メートル)が公園として残されていて、周りの石造りの塀は当時のまゝのものである。この位置にあった「鴨池」の名の発祥地として知られる池は保存されていないが鴨池の由来を刻んだ石柱(昭和13年3月、鹿児島市教育会建立)が残されている。現在の「ダイエー」の北側からの進入路は動物園のメインの園路の跡で、当時の門柱(片側)とフェニックスの並木の一部分がそのまゝ保存され、旧鴨池動物園の名残りととどめている。また中央保健所まえの松の大木とダイエーの南側道路ぎわのラクウショウが健在である。



鴨池に残された公園の一部(昭・47)

#### ▲動物の引越し

再度延期された開園日は最終的に昭和47年10月14日に決定。動物を新しい動物舎に馴

れさせるため、開園の1ヶ月前の9月中旬に動物を輸送する計画がたてられた。これよりさき昭和47年3月ごろから、建設プロジェクトチームでは動物輸送の検討に入ったが、方法や安全性についていろいろの議論があった。問題となったのは、ライオン(3頭)、トラ(2頭)・ジャガー(2頭)・クマ類(7頭)・インドゾウ(2頭)の運搬。いずれも特製のオリを使ってトラックで移す計画だったが、16km(鴨池~平川)の道のりを移動させるのははじめて。

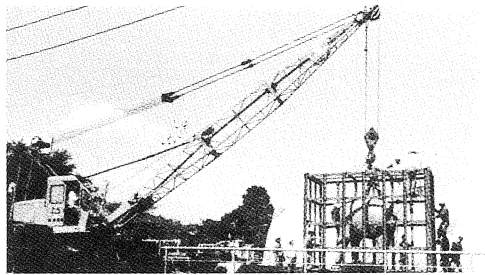
「扱いなれた動物商に依頼すべきだ」「1回きりしか使わないオリを特別発注するのはムダだ」「猛獣類の移転については、市民に迷惑をかけないため、万が一に備えて猟友会や武装警官隊に護衛してもらうことも考えなければ」といった内部意見とは別に市民から「ゾウは歩かせてパレードしながら移してほしい」といった希望も出て話題はつきなかった。

輸送する動物は、哺乳類57種 210点。鳥類53種 223点。爬虫類11種40点。計121種 473点。インドゾウや猛獣類の大型や危険なものについては万全を期して、動物業者に依頼することになった。

いよいよ動物輸送の9月に入ると、担当の飼育係員は、連日輸送箱に動物を入れるため、これをいやがる動物との間で智恵くらべに明けくれる。なかでも体重 3.5トンを越すインドゾウは、鋼材で高さ4.15米・横 1.8米・長さ 3.3米に組立てられたオリが使用された。このオリの一ヶ所は落し戸式になっていて、ゾウ舎の運動場への出入口に固定し、オリになれさせる期間は、出入りが自由にできるように工夫された。約20日間ぐらゐそのまゝにしておい

たが、それでも用心深いゾウはなかなか体を全部いれるのに時間がかかった。

昭和47年9月20日、秋晴れのもと動物引越し作戦の第一陣は、インドゾウの「ドム」君。エサでだましましオリの中にさそい込み、入ったところで、入口のおとし戸をガチャリとやって、オリごとクレーンでつりあげて、トレーラーに移しかえる。だが、これを16km離れた新動物園まで運ぶのが一仕事。先導車のつぎにゾウのオリの積込まれたトレーラー、つづいてクレーン車を従えた行列は時速30kmのスローペースで、国道 225号線を静かに行進した。



インドゾウの輸送 (昭47.9)

国道にかゝる歩道橋にオリはひっかからない様に、ギリギリの設計がしてあったのだが、それより低い電線は同乗した担当係員が竹ザオをもってもち上げながら進む。ときならぬ行列で、沿道の人達を驚かせながら約1時間かゝって新動物園にたどりついた。

動物を輸送箱に入れるのに比較的簡単なのは、ライオン・トラなどの肉食獣で驚かすと

すぐ輸送箱にとび込んでくれた。しかし「クマ」類はそう簡単にはいかない。10日間ぐらいの絶食でもエサで箱にさそい込まれるようなことはない。最後の手段としてクマの前肢に袈裟がけにロープをひっかけて輸送箱のなかに引っぱり込んで目的を達した。「チンパンジー」は寝室の入り口に輸送箱をドッキングさせて警戒心がとけるのを待つが、さすがは類人猿なかなか近づこうとしない。人間もホルマリンの原液を扱っているとポロポロ涙を流す。輸送箱入りをきらっているチンパンジーの部屋でホルマリンをすこし噴霧したところ、大声を出してわめきながら輸送箱にとび込み入口の戸をガチャリ。あっけない幕切れであった。

昭和47年9月20日にはじまった動物輸送は同月27日に無事終了した。

動物輸送委託料は、110万円。

#### ▲樹木・庭石の移転

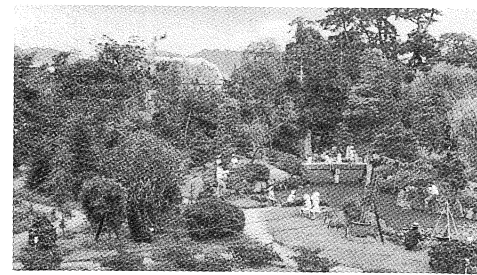
鴨池動物園では、大正14年11月、京都市から造園師を招へいして当時としてはざん新な造園を行っている。昭和10年4月には園内に植物園が設置されている。鴨池動物園の歴史に培われた植物も相当な数にのぼっていた。

昭和45年9月、鴨池ビル(中央保健所など入居)の建設にともなって、池の周辺の庭園にあったマツなどの樹木は、鴨池の勤労婦人センター北隣りの観光道路沿いに移植され植樹帯をつくっている。旧海軍航空隊の記念碑の「貴様とおれの碑」周辺がそれである。昭和47年6月には新動物園への樹木移植がはじまり同年9月ほとんどの移植を終っている。

勝目清遺稿集「鹿児島つれづれ草」のなかに「鴨池動物園内庭石について」と題して勝目さんが県知事宛に出された書翰(45.12.21)の記載がある。

「……40年ぐらい前、七高でプールを造るとき、旧城内庭園の石を移転方七高当局から鹿児島市に交渉があって、約 780個のりっぱな庭石を市で移転することになりました。

公会堂(今の中央公民館)前庭に旧城内庭園の主要部分を移設することにしましたが、公会堂の敷地が狭小のため不可能であったので一部のみを公会堂に使用し、主要部分すなわち、大慈水、〇〇(ボン字)滝、九阜橋をそのまま鴨池公園に造ったのであります。……………」。

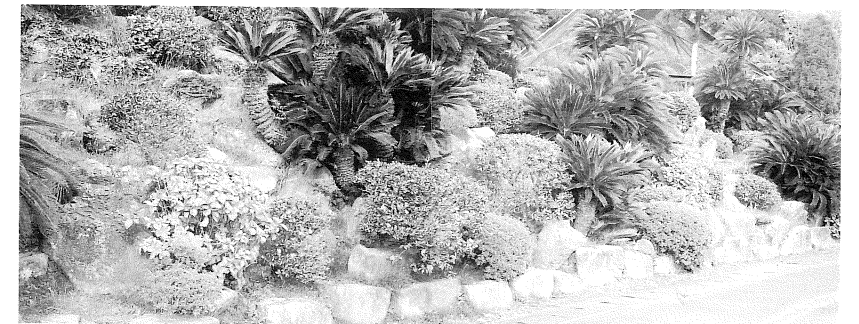


昭和初期の大慈水ほか

この大慈水ほかは園内の植物園にあったが、昭和35年2月、都市計画事業によって移設を余儀なくされた。移設にあたっては造園業者の手によって石組みの一つ一つに番号をつけたり、写真を撮るなどして忠実に再現。閉園を機に県に引渡された。勝目さんは前述の書翰の後段で、明治百年記念事業の一環として大慈水ほかの鶴丸城跡への復元を望んでおら

れるが、この大慈水ほかは、昭和58年3月黎明館の建物の裏手(城山側)に復元されている。

鴨池動物園内には水族館入口など各所に立派な庭石があったが、これらはすべて平川動物公園に運ばれ、主にハクチョウ池の近くのソテツ山の周辺に使用されている。これらのなかに鶴丸城跡から市に移管された 約780個の石の一部が含まれているかどうかは確認するすべはない。



現在のソテツ山 (平・元)

#### ▲新しい動物を迎える

動物園建設を機会に新たに動物を購入し、昭和47年10月6日、ローランドゴリラ・クロサイ、同7日にはキリン、同9日ホッキョクグマ・ワニ類・フラミンゴがつぎつぎと到着。新らしく購入した動物は21種類 128点。今まで鴨池動物園にいた 121種類 473点を加えると、合計 142種類 601点の大世帯となって、動物数においても全国上位にランクされ開園を迎えることになった。

#### 主なる購入動物の価格 (昭和47年 単価)

ローランドゴリラ	2,450千円	ホッキョクグマ	625千円
ク ロ サ イ	2,200千円	グラントシマウマ	390千円
マ サ イ キ リ ン	1,195千円	チ ン パ ン ジ ー	290千円

動物購入費総額 25,356千円

#### ▲新動物園のオープン

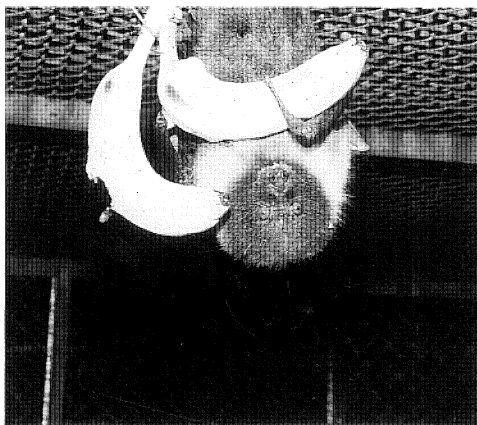
昭和47年10月14日、午前11時から関係者約 500人が参加してメインゲートまえで開園式が行なわれた。

総事業費 約16億円 総面積 約33万4千平方メートル

昭和46年4月5日着工、約1年半かけて完成した。

(元 平川動物公園長)

# 動物公園の顔



## ◀ エラブオオコウモリ Borodino Fruit-Bat

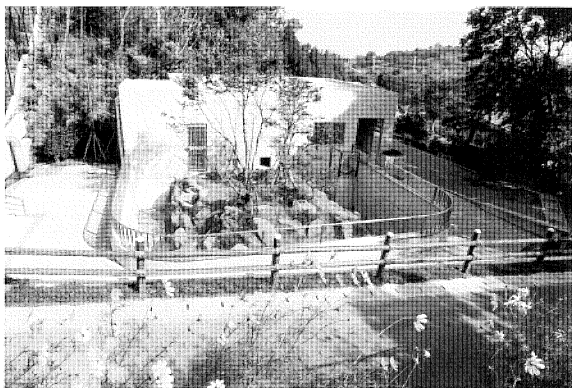
翼手目 オオコウモリ科

学名: Pteropus dasyamallus

鹿児島県宝島と口永良部島に生息する。日中は樹枝にぶら下がりて休息し、日没より果実を求めて動き始め、数時間をかけて採食、休息する。このため果樹園にしばしば被害をあたえる。採食が終ればもとの木にもどる。同じ木を数年間すみかにする。

主食は果汁で、汁だけしぼって飲み、かすは吐きすてる。バナナなどやわらかいものは、ある程度のみこむ。生息数がすくなくなり、天然記念物に指定されている。

## \* 動物公園施設案内 \*



### ▲ レッサーパンダ舎

昭和63年7月25日、長沙市から贈られた、レッサー・パンダのつがいはしばらく休養、園内のレストハウスに仮住いだったが、このほど冷房完備の新動物舎に引越した。観客は窓越しに部屋のなかの様子もみられ、南向き樹木を植栽した芝生の放飼場をもち、明るい近代的な動物舎である。

## 平川動物公園入園者の推移

(昭47.10.14~平 1.3.31)

年度	有料(人)	無料(人)	合計(人)
47(10/14)	373,485	149,394	522,879
48	551,402	220,560	771,962
49	438,977	175,590	614,567
50	409,032	163,612	572,644
51	380,992	152,396	533,388
52	359,960	143,953	503,913
53	395,929	145,955	541,884
54	380,256	139,948	520,204
55	360,917	137,916	498,833
56	373,841	151,098	524,939
57	369,866	152,315	522,181
58	355,668	138,210	493,878
59	628,590	196,733	825,323
60	701,154	205,959	907,113
61	547,745	175,335	723,080
62	502,917	164,594	667,511
63	477,324	171,052	648,376
合計	7,608,055	2,784,620	10,392,675

### 表紙題字

鹿児島市長 赤崎義則

ひらかわ No28 平成元年12月1日発行 第28号  
 発行所 (財)鹿児島市動物公園協会  
 〒891-01 鹿児島市平川町5669-1 ☎0992(61)2326-8  
 発行者 鹿児島市動物公園協会理事長 赤崎義則  
 編集者 鹿児島市平川動物公園長 宮園靖夫

撮影: 酒匂 猛・松窪隆治・山口成昭